259.5
146

259. 5-146
1200501349917

實業教育資料
第十七 長野縣の實業教育

倉橋藤治郎編

始

259
146

長野縣の實業教育

財團法人 實業教育振興中央會常務理事
藤橋倉治郎

料資育教業實

17

內省部文
財團法人 實業教育振興中央會 發行

實業教育資料刊行の趣旨

實業教育資料は、一は實業に關する重要問題に付、斯界の權威に執筆を乞ひ、以て教育關係者をして國家的に又實業的に最緊急重要なる事項に付、正確なる知識を把握せしめ、學生々徒の教育指導に遺憾なからしむると共に、一は實業教育に關する斬新なる學說意見、顯著なる施設業績、外國事情等を紹介して、實業教育の改善進歩に資せんとするものである。

即ち實業教育の改善と新教材の供給との二を主なる目的として編纂するものである。

「長野縣の實業教育」刊行について

長野縣は教育縣として全國に有名であり、實業學校も實に五十餘校に及び、其の施設運營に觀るべきものが少なくない。

本冊子は實業教育振興中央會及び長野縣實業教育振興會の共同主催の下に、昭和十六年六月中旬開催せられたる實業教育振興研究懇談會に於ける倉橋中央常務理事の意見を纏めたるものであつて、獨り長野縣實業教育上の參考として有意義なるのみならず、一地方の實業教育につき、斯の如く廣き視野と、凱切なる時局認識を以て論述せられたるものはないから、各府縣の當局、實業教育界乃至實業及び教育に關係を有し興味を有する者の必讀すべき好資料である。

昭和十六年四月 帝國圖書館

359.5
146

目次

實業學校約五十校……二
篤志實業家の貢獻……三
縣民性の長短……五
產業的長野縣……七
農商學校か農工學校か……九
拓殖教育……一二
大陸二世邦人教育……一三
工業教育……一五
電氣工業教育……一六
商業教育……一八

商業教育の目標……一九
高工誘致問題……二三
卒業生分配……二三
人材の交流……二五
教員再教育……二七
休養慰安の必要……二九
道場（塾）教育……三二
中學との優劣……三四
高女と女子實業……三六
結　言……三七

長野縣の實業教育

實業教育振興中央會常務理事　倉橋藤治郎

長野縣實業教育振興會は中央會と共同主催の下に、長野縣實業教育振興研究懇談會を開催し、昭和十六年六月十八日長野市長野工業學校、翌十九日上田市小縣蠶業學校、二十日松本市松本商業學校、二十一日岡谷工業學校に於て、四日間に亙り同縣實業教育の全部面に付、短かい時間なから極めて眞摯なる研究討議が行はれたことは、同縣實業教育界の爲に實に有意義なる計畫であつて、當初より本中央會の趣旨に則り、所謂聽き放しの講演會等を極力排除し、內容實質のある研究懇談會の開催を主張勸說し來れる我々の提案に贊成し、此の企てを終始最も熱心に實行せられ、相當の成果を收められた縣振興會當局に對し深く敬意を表すると共に、縣當局及縣實業界、教育界に於ても、此の四日間の研究懇談の結果が縣實業教育界の現在及將來に對し示唆啓發する

所が少くなかつたと認識せられた事と信ずる。

前二日間は文部省から督學官清水工學博士、中央會から私と宮坂主事とが出席し、後二日間は文部省から督學官大畑經濟學博士、中央會からは前記兩人が出席した。以下は此の四日間の各會合の席上に於て、最後の總括的答辯並に批評として私が述べた所を綜合し、玆に參考のため記述する次第である。

實業學校約五十校

長野縣は政治、教育、思想其の他各方面に於て、全國に於ける先進縣として有名であつて、實業教育に於ても小縣蠶業學校が明治二十五年創立せられて以來、今日では縣立十七、市立二、町立五、村立三、組合立十九、私立三、合計四十九校に上り、之を種額別（名稱別）とすれば農學校十六、農林學校二、蠶業學校一、農蠶學校四、山林學校一、農業拓殖學校一、農商學校四、商業學校十、工業學校二、女子實業學校三（農、商、職）、家政女學校三（農、職）、裁縫專修學校一等の如く、いかに大縣なりとは云へ、約五十校の各種實業學校を擁してゐると云ふことは、流石に教育先進縣の名を恥かしめないものと言へる。又其の數のみならず內容に付ても種々の特色を發揮せるものが少なくない。

篤志實業家の貢獻

又縣下乃至縣出身の實業家諸君が、或は實業教育の爲に多額の寄附をなし、乃至直接教育施設に對して種々貢獻をしてゐる例が少なくない。例へば私立の松本商業學校が、片倉家の財的援助により、日本一と言つてよい程立派な設備內容を備へてゐるのは、一には有名な米澤前校長の獻身的努力の結果に基く所が多いが、又片倉兼太郎、今井五介兩翁の理解ある態度によつて始めて可能になつたものである。又元貴族院議員武井覺太郎翁が、伊北農商學校を殆んど獨力で施設せられ、實質に於て武井翁の一基建立でありながら、名は組合立として一向自分の名を表面に現はさうとされない如き、孰れも實業教育界の美談として傳へるに足るところである。

松本商業學校の現在校舍は、昭和十一年現在の敷地に移轉新築せられたものであるが、此の移轉新築に就ての今井、米澤兩翁の腹藝くらべは興味の深い物語りである。卽ち今井翁は東京其の他各地の斯種學校施設を仔細に研究せる結果、鐵筋コンクリート三階建の堂々たる近代式建築設計をさせ、これを米澤校長に示した處、悅ぶかと思つた校長は、案に相違して、教育は其の教授內容と共に校舍の建築、校舍內外の環境等に影響されることが少くないと云ふ持論から、あの冷たい硬い西洋風の鐵筋コンクリート建築の中では絕對によい教育は出來ないことを主張して、この設計に贊意を表せず木造二階建を主張し、今井翁との間に兩々相讓らず、一方は近代的、進步的、實務的立場に立つて主張すれば、一方は傳統的、精神的、教育的立場を固執して退かず、長い間兩翁の意見の合致を見ない爲に、建築が延び〳〵になつてゐたが、遂に米澤校長の熱心が今井翁を說得して、現在見るが如き本館教室は總て木造二階建、雨天體操場其の他のみが鐵筋コンクリート建築となつて實現したのは非常に有名な話であつて、米澤校長が其の信ずる所を斷乎として枉げず、假令寄附者の意思と雖も、教育上の所信に悖るものは最後迄之を受容れなかつた信念と、今井翁が世間幾多の實例より歸納し、最善と信ずる所の設計を、財的援助者の立場と云はんより、社會事業家の好意より勸奬しながら、遂に教育當事者の熱心に打たれて之に一任した態度は、兩翁共に見上げた所の教育逸話と云はねばならぬ。

田中前商工教育課長、現彥根高等商業學校々長は此の學校の禮讃者で、日本一の折紙を附け、大畑督學官も恐らく本校と滋賀縣八幡商業學校とが、一得一失はあるが、商業學校中の双璧であらうと言つてゐる。殊に本校に於て、總て設備と內容とが有機的に整然と施設されてゐることは稱讃に値する點である。

縣民性の長短

長野縣人の縣民性と云ふことが各地に於て論ぜられ、その美點長所と共に又缺點短所が指摘せられたのであるが、同縣人、同地方人又は同年者等の共通的性質と云ふことは屢々述べられる所であつて、例へば長野縣人は理窟つぽいとか、東北人は鈍重であるとか、或は寅年の人は氣が强

いと云ふやうな觀念的の批評が行はれてゐる。是は勿論一面の眞理を含まなくはない。卽ち山嶽地方と沿海地方、農業地方と商業地方又は工業地方と云ふやうに、四圍の環境は自ら住民の性質に大きな影響を與へることは爭へない事實とも云へるが、又一面に於て斯樣な言ひ慣らはしをするが爲に、後天的に其の性癖が助長される傾向もあるので、卽ち長野縣人は理窟つぽいと言へば、理窟を言つても長野縣人だから當然と考へられ、自分も認める、他人も認めると云ふやうな結果になつて、勢ひ長野縣人が逆說的に理窟つぽくなると云ふことも考へねばならぬ。寅年が氣が强いと言へば、寅年であるから氣が强くとも差支へないことになり、あの人は寅年だからと云つて人もそれを許すことになるから勢ひ氣が强くなる。卯年の人は優しいと言はれゝば、優しくしなければ干支に相應しくないやうになるから、自然優しさを養成される。從つて縣民性と云ふことは美點長所の發揮に向つては利用すべきであつて、淸水督學官が云はれた樣に、長野縣人は容易に物に喰附かないが一旦腰を入れ出すと徹底的にやり出すから、科學的研究などには實に適任だと云ふ樣な長所は大に勸奬すべきであるが、餘り缺點短所を强調し過ぎて、長野縣人なるが故に或種の缺點短所をもつてゐても已むを得ないやうな觀念を與へることは、敎育上甚だ愼しむべきことである。又今日の如く交通通信が便利となり、出版、ラジオ等により文化が普及するに於ては、漸次地方色が稀薄になるのが大勢である。此の點に於て縣民性の强調は、敎育的には餘程注意深く取扱ふ必要がある。

産業的長野縣

産業上より見た長野縣は、主として農蠶國であり、農業と共に蠶絲業によつて、地方としては珍らしい經濟力を有し、隨所に大製絲工場を見受けると共に、各農家も多年養蠶業に依つて地方農村としては他府縣に比して、破格の收入を得てゐた。

工業上に於ては日本の屋根と言はれ、所謂日本アルプスの連亙せる山嶽地方であつて、北に流れる千曲川、犀川、合流して信濃川、南に流れる天龍川、西南に流れる木曾川等の諸川は孰れも大發電水力の源泉となり、我國に於ける一大發電水力國である。

農業教育

長野縣の農業教育は、學校數に於ては三十數校に達するが、是だけの學校數をもつてゐるならば、少くとも其の半數位は相當に專門的に特色をもつた方針施設を採つてよいのではないかと思はれる。尤も之は長野縣と限らず日本全國を通じて明治以來の輸入文化の弊害であつて、例へば農學校に付て一つの見本が東京に出來れば、それを小規模に薄めて各地方で眞似をする。それを又更に小さく近所で眞似をすると云ふのが、此の數十年來の各社會に於ける習慣であつたが、明治年間に於ては兎も角、今日としてはかような下手な規格統一は困るので、どうしても其の地方の實際の產業狀態に卽應して特色ある主張ある學校が出來て來ねばならぬと思ふ。

それから地方農村の將來の產業的地位を考へると、從來の如く農業を主業として村落住民の勞力を季節的に消費し、農閑期に於ては之を無駄に過させておくと云ふ、幼稚な經濟觀念を打破し、卽ち從來の產業別のカテゴリーに拘束されて、農民々々と云ふ言葉に束縛せられず、廣く村落住民又は地方住民としての立場から考へるならば、必ずしも農業のみに勞力を消費せねばならぬ理由はない。況んや之を季節的に消費する外ないと簡單に諦めてしまつてはならないのであつて、何分勞力は蓄積することの出來ないものであるから、常時的に且つ適度に村落住民の勞力を消費し得るやうに、產業を加減調節することは、地方村落の更生發展上必要條件である。

農商學校か農工學校か

此の意味に於て各地の農業學校は、村落餘剩勞力の利用を目的とする農產物の加工乃至農村に工業の導入等を行ふ必要がある。言ひ換へれば、從來の意味の農學校と共に、農工學校と云ふ樣な學校が望ましいのではないか。本縣には農商學校と云ふものが四校ある。是は近縣にも例があつて、その成り立ちは農學校として發足したもの、學校所在地たる地方小都會等に於て商業教育を受けた者の需要の少なくない關係から、學校卒業生の就職に苦心した當時、便宜上商業科を加へ農商學校としたものであつて、農商學校と言ひ條、實質に於ては商業の方が過半數を占めてゐ

るものも多い。これは單に就職上の便宜等から起つた一時的便法であるが、當該地方に中等實業學校が稀なる場合は兎も角、多數の學校が存在する現狀に於ては、施設內容の充實を圖る上に於ても、農商と云ふ樣に木と竹を接いだやうな學校でなく、農と商と專門に分ち、進んで機械とか園藝とか單科にして行く行き方と共に又相關聯せるものを綜合設置し、產業の進步せる綜合的傾向を具現すると云ふ行き方がある。後者の意味に於ては農工學校の如きものこそ望ましい。この點は淸水督學官が再三强調された所で、私も同感である。今日の產業は、前世紀までの如く單純に原始產業、加工產業等と云ふ風に、簡單明瞭に區別すべきものでなく、一つの土地に卽し、その地方に存在し又は經濟的に利用し得る各種の原料、材料を以つて、其の地方の自然的條件及人爲的條件を合理的に最善に利用せんが爲には、いかなる生產加工を行つたらよいかと云ふ綜合的立場に立つて見るべきであつて、この立場から云へば農業、工業と一方にのみ立て籠らず、地方產業の合理的開發を目標として、其の地方に於て現地處理の出來るものは之を行ふと云ふ建前の學校があるべきである。それには主として農林畜水產々物の加工と云ふ農業方面からの步み寄りと農村に對して工業的生產を導入すると云ふ工業方面からの步み寄りと、兩者から步み寄る必要がある。農業方面からの步み寄りとして、農產加工に付ては、現に各農學校ともそれ〴〵大小の施設をしてゐる。これは一轉すれば木材工藝科、農藝化學科となり、又一步進めば應用化學科となり得るのであつて、この方面に付ては多く言ふを要せないが、工業方面からの步み寄りと云ふべき農村工業の部面に付ては、勿論大規模工業の地方分散と云ふ事も必要であるが、又農村をその儘にしておいて、その勞力を工業的に利用し農村の經濟生活を農富ならしめ、生活を向上せしめると云ふ事に付ては、例へば新潟縣に於ける理研系統の諸會社等に於て、ビストンリング其の他重工業の部分品、工具等の製造を單能工化して、農村の少女にさへも適應可能ならしめたやうな例は、本縣に於ても大いに考慮の餘地がある。

要するに農業を從來の農業の範圍に限定せず、廣く村落住民の產業的將來に對し光明進步を與へると云ふ、大きい明るい構想の下に進むことが非常に必要であつて、これは從來農業と共に蠶絲業によつて、この問題を適度に解決し來つた長野縣人としては、日本の產業躍進期に於て、更

にこの趣旨を新しい經濟體制に即應して研究實施することが必要であらう。

拓殖教育

本縣には農業拓殖學校があり、又各地に於て拓殖教育が盛んに論議せられ、又實際滿洲に對し多數の移植民、青少年義勇軍等が續々渡航してゐる事は、我國の大陸國策上まことに喜ぶべき現象である。拓殖教育と云ふものは、農業を基調とする一般教育であつて、所謂農業技術の專門家を教育するものとは、少しく觀點を變へなければならぬ。即ち日本の如く知識が專門化し、それぞれ特殊專門の知識に立て籠つて生活し得るやうになつた高度の社會に於ける教育と違つて、東洋大陸に於けるが如く、程度の低い、知識人の乏しい、人口稀薄な土地に於て活動すべき開拓者の資格と云ふものは、餘程廣い一般的知識、即ち農業のみならず、土木、鑛山、殊に衞生、醫療等に關する一般的知識等も是非必要とするのであつて、この意味に於て、拓殖教育は一つの農業を基調とせる綜合教育であると云ふ點に付て、再認識を要望したい。

大陸二世邦人教育

東洋大陸に於ける二世邦人の教育と云ふ問題が取上げられたことがあつたが、これは將來なかなか重大な意義のある問題で、今日より研究を要する所である。私は屢々歐米に赴き、殊に近年米洲に再三渡航せる關係上、合衆國及ラテン・アメリカに於ける邦人二世及三世の問題を實際見聞して、少なからず感じてゐることであるが、合衆國の二世は在米邦人男女の間に出來たもので、即ち米國で生れた純粹の日本人であるが、併しながら日本を知らず、日本語よりも英語を慣用し、即ち生理的には日本人であるが、精神的には日米混血兒であると云ふ中間的存在であるが爲に、米國人からは日本人扱ひをせられ、日本の本國人からは日本人扱ひをされないといふ中ぶらりんの形になつてゐる。然るにラテン・アメリカに於ける二世は、ブラジル等に於ては合衆國に於けるが如き例もあるが、其の他の諸國では在留邦人が少數であり、又一般に生活程度が低く、且密集居住してゐない爲に、勢ひ中以下のラテン人と土人との混血兒乃至土人即ちインデアンの

女性と結婚して、其の間に出來た混血二世であつて、從つて我々が出會つてもスペイン語又はポルトガル語を話し、日本人と云ふ特色が殆ど現はれてゐない。時々かような人達に出會つた時、自分の父は日本人であると云ふようなことを言はれても大した感銘を與へない程、日本人離れをしてゐる混血二世であつて、捨てて置けばいつかラテン・アメリカ人の中に融けこんでしまつて、痕跡の見出しにくい形になる存在である。孰れにしても此の北南米二世の問題は、後續部隊が續々優勢に補充強化されて來ない爲に、二世の教育上、本國の日本人と云ふものが、背景として、大きい現實の力になつて迫つて來ない爲に、段々日本人ばなれして行くのである。

このことは東洋大陸に於ける邦人二世の場合に於ても同樣であつて、二世其のものの教育と云ふことよりは、我が邦人の東洋大陸に對する移住が繼續的に大規模に行はれ、日本人の流れが大きい勢ひとなつて大陸の人的要素の中に注ぐならば、邦人二世は右へ習へで、教育も其の他總ての問題は解決する。もし日本人の移住が積極的、大々的に行はれない場合に於ては、邦人二世の教育問題は、特殊問題として研究をしなければならぬ。結局心ある者はわざ〳〵教育の爲に內地へ妻子を歸らせ、自分は現地で獨身生活をすると云ふような事になる。要するに邦人二世の教育問題は、日本から大陸への人的進出が繼續的に大々的に行はれるか否かと云ふことによつて自ら方針がきまるものである。

工業教育

長野縣の工業立地的要素は、發電水力資源であること、我國脊梁山脈の棟に位し、海岸より最も遠く、卽ち國防的に安全度が高いこと、又縣民が勸勉であつて精密なる技術等に專心熟達する性質があること等であらうと思ふ。工業の誘致と云ふことは、今日各府縣に於て熱心に主張せられ又實行せられてゐるが、過去の自由經濟時代と違つて、現在の統制經濟時代に於ては政略的、情實的理由による工場誘致は漸次困難となり、合理的、科學的理由に基く工場立地が盛んとなつてゐる。卽ち昔は原料の產地に工業が起り、中世に於ては商人の勢力の增加と共に金融、勞力、交通、市場等の關係上、都會が工業を吸引したが、現代は工業を構成する各種の要素中、最も有

力なる吸引力のあるものが工場所在地を決定することとなり、この意味に於て長野縣に於て今後合理的に隆盛となるべき工業は、農蠶林産物を利用する工業、電力を最も多量に消費利用する工業、國防上高度の安全性を必要とする工業等であらう。農村に於ける農蠶林産物の利用工業に付ては農業の場合に於ても之を述べたが、更に一つの例をあげれば、本縣には山本鼎氏等により二十年も前から農民美術運動が興されたりした歴史もあり、山國の落着いた空氣の裡に、本縣農蠶林産物たる木材、蠶絲等を利用する木材工藝、織物工藝等を主とした工藝學校があつてもよいのではないかと思ふ。

電氣工業教育

電力は、天然資源の乏しい本邦に於て、最も惠まれたる資源の一つである。之を有效適切に利用することは、國民の天然に對する責務である。然るに長距離高壓送電の成功以來、日本アルプスの所謂白色ダイヤモンドと稱せられる水力電氣は主として遠く東京地方、名古屋地方、大阪地方等に送電せられ、縣下に於ては幾許の消費も見ない狀態にあつて、此の遠距離送電の爲の設備費、送電による電力減耗等を計算すれば、國家的に相當な損失をしてゐるのであるから、電力を最も大量に消費する如き工業、卽ち電氣冶金等の電熱工業、電解工業等は、發電水力地點に於て發電所と共に製造工場を建設して、最も低廉豐富なる電力を利用し、生産費を低減することが必要であつて、この意味に於て長野縣工業教育は、更に電氣工業的に發達する餘地がある。長野縣には既に三校の工業學校があるが、尙此上に前述べた工藝學校、更に進んで電氣工業專門の工業學校が中等程度或は高等工業程度に於て建設されることなども考慮すべきである。

國防工業に付ては、時として安全性の爲には或程度の經濟を超越せねばならぬ場合もあり得る。本縣は國防的に見て最も安全度の高い地方であるから、この意味に於て或種類の國防工業を招致すること、又從つてさう云ふ方面に對する工業教育的施設、例へば精密機械工業の如きもの の發達も合理性がある。

今日地方計畫、國土計畫等の趨勢より論ずれば、從來その地方に何種類の工業があつたかと云

ふ歴史は餘り問題でなく、いかなる工業を起し得るかと云ふ科學的基礎が必要なのである。例へば朝鮮咸鏡南道の興南の如きは、從來全く世人の話題に上らなかつた僻地であるが、一度野口遵氏の朝鮮水力及朝鮮窒素等の事業が起り、鴨綠江の水力を上流に於て堰止め、之を急峻なる日本海方面に切つて流し、高い落差を作つて大水力電氣を起し、之を窒素工業、人造石油工業等の如き電氣化學工業に利用するに及び、興南は一躍して我國工業界の花形となつた。又瀬戸内海沿岸の廣畑は全く見る影もない一寒村であつたが、數年前日本製鐵廣畑製鐵所が建設せられるに及び、突如として此の寒村變じて人口八萬を容れる大工業都市となり、之に接續して各種の官私大工場が建設せられ、廣畑製鐵所を中心として一大内海沿岸工業地帶が實現せむとしてゐる如きはその適例である。即ち長野縣が從來工業的に何物をもつてゐたかと云ふことは問題でなく、今後何物をもち得るかと云ふことが、産業的に又教育的に研究すべき點である。

商業教育

商業は昨年以來相當根本的に動搖を感じた。極端なる論者は商業と云ふ文字を辭書から抹殺すべしとさへ云つて、商業者を極度に憂鬱ならしめ、前途に不安を感ぜしめた次第であるが、これは中世紀より物資の交換が金錢を媒介として行はれ、金錢貨幣が經濟産業を動かす勢力の象徴となり、從つて金錢を握る商業が實業の中心勢力となり、富を集積して經濟界の權力を專にした結果、羨望嫉妬の的ともなつたが、又、商業者も傲慢不遜となり、腐敗墮落となし、遂に商人と言へば只管金錢を取扱ひ賣買の差益を狙ふに專らなるものと誤解された結果、商業行爲そのものまでが全體的に卑しめられたのと、一方に於て工業の發展、各種組合の發達等が、中間的媒介者としての商人の必要を減殺するに至り、殊に時局に於ける重點主義の强化の結果、商業を不急乃至不要より進んで無用とまで論議せしむるに至つたのであるが、これは近來の商業人の弊害の一面を極論したものであつて、商業そのものゝ本質では必ずしもないのである。

商業教育の目標

然らば商業の目的は何であるかと云へば、その第一目的は物資の配給であつて、生産者より消費者への物資の配給と云ふことは將來組合がいかに發達しようが、又生産加工業がいかに大規模にならうが、合理的配給と云ふことは一つの專門として重要視せねばならぬ。我國の統制經濟に種々非難があるのも、その一つの點は配給の不合理なる點にあつて、これに付ては商業者が大に手腕を發揮すべき點である。

第二は、産業經營であつて、官公私の經濟産業機關の組織が段々尨大複雜になるに從ひ、その經營は又一つの專門技術である。工業に於ても、總ての經濟産業行爲に於ても、その經營と云ふことは、結局現在の商業教育を受けた者が適格である。

第三は、貿易であつて、今日國際的貿易は非常に制限され窮屈になつてゐるが、それにしてもこの狹小なる帝國版圖内に於て自給經濟を樹てることは思ひもよらない。少くとも圏ブロックとか東亞共榮圏範圍内の廣域經濟を取らなければならない。とすれば、假にそれが圏貨又は外貨で行はれるにせよ、その貿易は又專門技術の關する所で、即ち商業教育を受けた者の關係すべき所である。

即ち配給、産業經營、貿易の三大目標が新商業道に於て成立し得るのであるから、商業教育は一時の世論に迷ふ所なく、新商業精神に則つて國家目的に順應し、國策に協力し、益々研鑽努力せねばならないのである。これは最近本中央會に於て高等商業學校標準教授要綱の調査編成を行ひ、文部省關係官吏、大學、高等商業學校教授等よりなる委員會に於て愼重審議の結果、決定せられた結論であつて、この要綱は文部省に於て全面的に採擇せられ、十七年度より全國の高等商業學校をして此要綱に基き運營せしめられる筈であつて、『實業教育』十六年七月號に掲載せられてゐる。又中等商業學校の教授要綱に付ては、文部省に於て十六年度に豫算をとつて改正を行はれる豫定であるが、前記のものが一つの基準となるべく、大なる相違あるべしとは思はれないから、よく研究の上、經濟新體制に即應する商業教育の普及透徹に盡力せられたい。商業教育に從事する人が悲觀すべき理由は少しもないのである。

高工誘致問題

現在長野縣には高等專門學校として官立松本高等學校及上田蠶絲專門學校があり、縣立女子專門學校があるが、其他には專門學校がないので、かねてから高等工業學校の誘致に付て、全縣的に非常に熱心に盡力しておられるやうである。不幸にして十四年の七高等工業學校の創設の際には、最後に於て本縣が其の目的を達することが出來なかつたが、この問題は今日より科學的基礎に立つて、いかなる高等工業學校を長野縣に創設することが、本縣のみならず國家的に必要且有意義であるかを考究献策されるならば、國として之を聞かない譯には行かない筈である。然るに只徒らに運動によつて專門學校を招致しようと云ふことは、舊時代的の態度であつて、理論的と云はれる長野縣人の態度とも思へない。今日としては合理的基礎に立つて、即ち前述べたる如く、例へば國策としての電氣を中心とせる高等工業學校、或は進んで電氣工業專門學校、乃至更に理論を加へて電氣を中心とせる電氣理工學專門學校等のものが計畫されるならば、之は地理的に

見ても亦純理的に見ても、長野縣以外に之を建設すべきではなく、是非長野縣に建設せねばならないと云ふ理由が、具體的に強く主張し得られるのである。即ち電氣物理學科、電氣工學科、電氣化學科、電氣冶金科、機械工學科等を含む電氣中心の專門學校の如きは、本縣に適應性があると共に、國家的要求に適應せる最も合理的なる計畫ではあるまいか。尙專門學校と限らず、單科特殊學校を建設する必要は前述べた通りである。

卒業生分配

縣市町村立の地方財政によつて支辨維持される學校卒業生を、出來得る限り鄉土に定着せしめたいと云ふ問題が、各地に於て唱へられた。一應尤もな意見であつて、豐富ならざる地方財政を以て養成した鄉土の青少年が、卒業と同時に主として大都會地へ吸收せられ、鄉里の產業的發展に貢獻しないことに對する不滿は一應尤もである。從つてもし卒業生が自由に鄉土を離れ、大都會に集中することを許す位ならば、教育費の大部分を國家に於て支辨せよと云ふ意見が出て來る

のである。我々も或程度迄その鄕土に育ちその鄕土を愛する青少年が、鄕土に止まつて先祖以來血統の中に傳つてゐる愛鄕心に卽して產業發展の爲に盡力することは、頗る望ましいこととして、推奬するに躊躇するものでない。

然しながら今日は自然的にも亦國策的にも、これを困難ならしめる理由が多くある。卽ち自然的に考へても、有爲の青年の抱く青雲の志は、彼等をして鄕土に止まるを許さず、志を立てゝ大都會に出で、かくして出來上つたものが、本縣に例を取れば樞密院議長原嘉道博士の如き、前司法大臣鹽野季彥氏の如き、海軍大將鹽澤幸一氏の如き、實業家今井五介氏の如き、其の他赫々たる名聲を國內に轟かせてゐる諸氏であり、或は是等の諸氏程有名ではなくとも、國家的に有意義なる任務に參加してゐる多數の人士がある。もし是等の諸氏を鄕土に留めしめてゐたならば、縣の爲には或は喜ぶべきであつたかも知れないが、全國家的には必ずしも歡迎すべきではなかつたかも知れない。もし各府縣が悉くその鄕土出身の有爲有望なる青少年を足どめすると云ふことになれば、日本を脊負つて立つ者はどこから供給するか、どこで教育するかと云ふことになる。東京と限らず大都會と云ふものは地方の集合であつて、一つの寄木細工に過ぎない。或は個性をもたない寄合世帶である所が、大都會の特色であるとも言へる。卽ち長野縣人も他府縣人もそれ〴〵の鄕土を持ちながら、東京其他大都會に於て、國家的に又は專門的に貢獻盡力し得るのである。この點に於て發展伸張し得べき人材は、必ずしも鄕土に留めることなく、その青雲の志を伸び易くせしむることは、鄕土の住民としての德義であり、又後進に對する義務である。

人材の交流

又今日長野縣の實情を見ても、例へば手近に例を取つて、知事以下縣當局、實業界乃至實業學校の校長教諭諸君等のうち、果して長野縣人が幾人あるかと考へると、或は他府縣人の方が多いのではないか。官吏、教育家、實業家として名聲藉甚たる人の中には、隨分他府縣人であつて、此の縣に定着し、第三者としての公平なる眼を以て、縣人の長所缺點をよく呑みこんで、縣治なり教育なりに專念して、今日の名聲を獲ち得た人が少なくないと思はれる。進んで他府縣の移住者に

して、今日では長野縣を代表する形になつてゐる人も少くあるまい。卽ち長野縣出身者にして東京其の他の大都會又は他府縣に於て快心の活動的地盤を見出せる人もあり、又他府縣出身者にして長野縣に於て、初めて自己安住發展の境地を見出す人もあると云ふことはあり得べきことで、優生學の原理により、彼我相通じ長短相補ひ、所謂近親結婚の缺陷に陷ることなく、他地方人の長所、優生的分子を取容れることによつて、人的素質の改善を圖ると云ふことも亦必要なことである。殊に後進年少子弟を教育養成すると云ふ事は、有爲有能の人材を育成して、更によき更に進んだ次の時代を委せる爲であつて、之を雇傭使役する事は其の爲の訓練準備の爲であつて、現代人が利用する爲に次代の人間を教育するものでは絶對にない。教育は先づ以て宜しく大義名分を正さねばならぬのである。

更に國策的見地からいへば、今日工業技術に關する學校卒業生は、大學專門學校以下、全國を通じて厚生省によつて分配せられ、自由に其の就職先を決定する譯に行かない實情にある。是は時局下生產擴充の國策により、產業が益々重點主義を强化する關係上、軍需工業に對し重點的に工業技術者を吸收する必要があるからであつて、時局が現狀の如く推移する以上、當分の間已むを得ない成り行きと云はねばならぬ。

勿論厚生省の手の伸びない農商業等の關係の卒業生が、徒らに輕薄なる都會の求心力に負けて、確乎たる信念もなく、唯ふら〳〵と大都會に向つて夢遊病者の如く出て行くと云ふことは極力防止すべきであるが、自然の人情としても全國的觀點からいつても、靑雲の志ある好靑少年は宜しく他地方にも出してやり、又他府縣で出來上つた人物を、この地方に移入し、かくして全國的に又地方的に人的要素が益々改良向上せられるやうに、適當なる交流が行はれるべきであると思ふ。卽ちこの問題は教育費の負擔を基礎として論ずべきでなく、教育の目的が全國家的に大きな意義のある點を考へるならば、國家も地方の教育に付て財的負擔を躊躇しないと共に、地方に於ても全國的統領の大才を養成する爲に、その費用の支出を惜しんではならないのである。

教員の再教育の必要が屢々論ぜられたが、これは確かに必要な問題であつて、中央會に於ても當初より農業とか商業とか各專門科目別に、或は單獨に、或は地方振興會又は學校と共同主催の下に再教育講習會を開き、又昨年は特に時局に鑑み、產業報國精神指導者としての中等學校教職員に對する講習會を、全國主要な十府縣に於て、文部省及び產業報國聯盟と聯合して開催し、所謂產業報國運動ではなく、國に報ずる精神を以て產業從事者の第一義となすべき所以を强調し、此點より生徒指導の道を說いた。此の講習會は引續き開催したいと思つてゐるが、かくの如く日進月步の產業界の進步の實情に照合し、學校教師をして最新の知識を吸收せしめ、又時局認識を强化せしむる爲の再教育施設は非常に必要である。各地の學校を見廻ると、隨分舊式の機械、時代遲れの設備と共に、相當時代を超越した頭腦の持主がないでもない。これは經費の少ないこと、利害關係の外にあつて激甚なる生存競爭、經營成績の優劣等を競ふ圈外にあるため、知らず識らずの間に時代に遲れて來るのであつて、その意味に於て再教育は最も必要である。中央會は其の外、中等實業學校教職員に對して研究助成、內地及外地視察の補助等を行つてゐるが、此の結果も亦再教育に資する所が少くないと思つて居る。

休養慰安の必要

併しながら學校教員のみが再教育しなければならないのであるか、或は學校教員のみを再教育すればよいのであるかと云へば、結局は全體の問題であつて、官公吏、政治家、實業家悉く再教育を必要とせざるものはなく、いはば今日の社會狀態は、官民上下共に再教育の必要なる時に到來してゐるので、或意味に於ては上層部程再教育の必要があるかも知れない。つまり明治以來の知育偏重の教育の宿弊の垢を洗ひ流すべき時節が到來したのである。卽ち明治維新以後歐米文物の輸入移植に急なる餘り、知識的に、技術的に、歐米の文物制度を輸入しさへすれば、卽ち先覺者となり權威となり、立身出世となり、高位高官を獲ち得た結果、擧世滔々として表面的、物質的、技術的に流れて七十餘年を經過した。然しながら明治の時代、我々の子供の時分には、何と云つてもまだ舊日本の傳統的な道德、宗教、社會制度、社會的制裁等が、少くとも地方には相當の力

を以て殘つてゐた。例へば早朝起きると神棚、佛壇に燈明を點じて禮拜し、或は太陽に向つて禮拜し、或は氏神に朝詣りをする。次いで庭や戸外を掃除すると云ふやうなことをして、朝の挨拶をしてから、學校に出かけると云ふやうな風習が殘つてゐた。又儒教佛教に基く家庭教育があつた。然るに今日では地方に行つても、さう云ふ風習は相當に薄らいでゐる。勿論都會は鄉土を離れて移住してゐる人が大部分である爲に、舊時代のさうした民族的傳統的美風長所が再三の移住轉宅と共に稀薄となり、遂に跡方を失つて、新生活は全く事務的な便宜的なものとなり終つた結果、明治時代に於ては、學校教育が知識偏重であつても、尙家庭社會等が之を補强するだけの德育、情操教育の田地であり得たものが、大正、昭和と時代を經過するに從つて、いはゞ田地が涸れて來た、肥料分が切れて來たと云ふ次第である。今日日本精神、人格教育、精神鍛錬の强調されるのは、明治以來の知育偏重の教育の弊害に對する覺醒の聲と見るべきものである。卽ち心構へ、魂の入れ換へは全社會を通じて必要なのであつて、學校教員に對して知的再教育を施すだけでは完全であるとは言へない。

醒つて思ふに時局以前に於ては學校教師と云ふ職業は閑な職業の代表的なものとなつてゐたが、時局以來生徒數、學級の增加乃至二部教授、夜間授業、職業補導、講演、講習、地方的產業への協力等が相續き、一方に於ては教職員の應召、入營、實業界への轉職等により人員が不足せるに拘はらず、之に對する補充の困難等が相俟つて、現在學校教員は相當多忙であつて、可なり疲てゐるれことが事實である。從つて教員に對する再教育も必要であるが、更に必要なるものは、或意味に於て休養であり、慰安であり、保健衞生の施設であるかも知れない。學校教師と云ふものは其職掌柄餘り世間から嚴しい眼で見られすぎてゐる。殊に地方に於ては先生と云ふものを別人種のように扱つて、公式や教科書で出來てゐるやうな苛酷な批判をする結果、兎角いぢけ勝ちとなり、任地附近に於ては大きな聲で笑ふ事も出來ないような窮屈な生活になり易い。再教育も勿論必要で、之は之で大いにやらなければならないが、同時に更に現下の必要は教員の休養、慰安である點を特に申述べておきたい。

道場（塾）教育

道場教育とか塾風教育の必要なること、又斯種教育が短期間に拘はらず、相當顯著なる成績をあげ、僅か二三箇月の道場又は塾生活によつて人間が鑄直されたが如くしつかりすると云ふ話が、本縣のみならず各地に於て聞かされることである。これは前述の如く明治維新以來の教育が知育に偏重せること、精神的訓練、人格陶冶を等閑に附してゐた宿弊に對する對症療法とも云ふべく、今日事新しく日本精神の昂揚が强調されるのも、亦實業學校等に於ても、改めて精神的陶冶、人格錬成等が强化されつゝあるのも、この明治以來の教育の宿弊に對する覺醒の一つの現はれである。この意味に於て日本古來の塾、道場と云ふ、一つの人格を中心とした教育制度を回顧し、之を新しい形に於て再發足させると云ふことは非常に意義のあることで、道場乃至塾風教育の精神は、現在の學校教育に大いに取容れ、西洋流の學校教育の上辷りの模倣から、日本の實際に即せる、地から生へたものに改められなければならない時期に到つてゐる。私は「國防と產業に就て」と云ふ演題の下に、各地に於て講演をして來たのであるが、近代戰の特色は有力なる銃砲による火兵と共に、飛行機及車輛兵器による高度の行動性である。有力なる銃砲の火兵は、いはば知的教育等を現はす。飛行機及車輛兵器による行動性は、いはば道場教育を現はすと見ることが出來る。

教育に「行」を入れると云ふことに、道場教育の特色がある。各地に於て道場教育が盛んになることは最も喜ぶべきことである。中央會に於ても、例へば本縣上伊那農業學校の上農寮の業績を、大村前知事の勸めにより、特に冊子に作製發表してゐる。

同時に考へねばならぬ事は、なぜ道場教育をすれば、極めて短日月で精神教育が出來るのかと言へば、現在道場教育が好成績をあげてゐる蔭には、學校教育の効果が大きな潛在的勢力として潛んでゐるのであつて、即ち野蠻未開の人間に二、三箇月の道場教育を施して、果してこのやうな驚くべき好成績を擧げ得るかと言へば、それは到底不可能なのであつて、現在日本の如く文化が普及し、學校教育が發達して、國民悉く義務教育を受け、又大部分は中等教育を受けてゐると云ふ、學校教育の普及によつて、道場教育を受ける前に、訓練に耐える素質と理解の出來る知識

を備へてゐるから、之を短時日の間に錬成陶冶することによつて、斯くの如き珠が磨かれるのであることは記憶せねばならぬ。

即ち道場教育は學校教育の弊害に對する對症療法的施設として各地に盛んになつたが、今後は道場教育と學校教育とが對立することなく、兩者が歩み寄つて道場教育の精神が學校教育に取り容れられ、明治以來の學校教育がやゝもすれば知識技能を授け、立身出世の機關に墮落せむとするのを匡救することが必要である。

中學との優劣

中學校と實業學校との設備及び生徒素質の優劣に付ての意見が各地に於てあつた。即ち大體中學校が主流であつて、設備も比較的完備してゐるし、又優秀なる少年は中學校に向ひ、第二流の素質の子弟と家庭の富裕でない子弟とが實業學校に向ふから、自然實業學校は設備に於ても生徒の素質の上に於ても見劣りがすると云ふ問題がある。これは前に述べた如く、今日日本の人物登用の方針が中學校、高等學校、帝國大學、殊に東京帝國大學法學部と云ふものが主流となり、高等文官試驗合格者の中で、殊に帝國大學法學部を出た者が將來の立身出世を豫約されると云ふ法科萬能の制度を根本的に修正するのでなければこの問題は解決しない。支那の科擧の弊は常に之を口にしてゐながら、日本はいつの間にか支那以上の科擧の弊に陷つて、人物の輪廓を益々小さくしてゐるのであるが、制度運用の中樞にゐる者も、人事行政の鍵を握つてゐる者も、皆高等文官試驗を通過した法學士であるから、自己の不利益なる改善に對しては頗る勇敢でない爲に、內閣の更迭毎に官吏制度の改善が取上げられながら、其進行は甚だ遲々たるものがある。其の結果小學校に於て素質の優秀なる者は、教員が無理をしてでも中學校に入學させやうとするのが人情であり、家庭が良くない場合には、何とかして補助援助を仰いでも之を中學校へ入れやうとする傾があるのは、國家が人物登用の方針の上に於て、一方には無限の立身出世を豫約、一方には豫め立身出世を抑止してゐると云ふ、片手落に對する、親心乃至先輩の後進子弟に對する親切心から出ることであつて、國の人物登用の方針が現在の宿弊を脫脚しない以上、此の問題に付ては、

同情理解を以て氣休めをいふことは出來るが、事實は如何ともし難いのである。

高女と女子實業

女子實業學校が本縣に於てもあり、又各府縣にもあるが、やゝもすれば之が高等女學校に改變される傾向にあつて、女子實業學校は減少するとも增加することが少ない。これも立身出世とは別の意味に於て、體裁、面子の上から、何となしに高等女學校の方が高尙上品であり、女子實業學校の方が卑俗低調なるが如き感じを、父兄乃至一般社會がもつ爲に、結局父兄としては女子教育に差當り求めるところは、結婚の爲の手段であつて、免狀は嫁入道具の一種と取扱はれる爲に、結婚條件を有利ならしめる爲には、女子實業よりは高等女學校を有利とする觀念の集積の上に、女子實業學校が高等女學校に改編される眞の理由が見出されると云ふ、理窟を離れた人情の機微に卽した點が存する。これも日本人の心構へが、立身出世より、大地に根を下した人物を養成し尊重することにならない以上は、學校と教育家ばかりを責めても效果はないのである。

結　言

以上は單に長野縣と限らず最近、各地方の實業教育振興會に出張せる際の見聞に基づく感想も打込まれてゐるのであつて、半ばは現在の實業教育に對する共通的性質のものであるといひ得る。

要するに、長野縣に於て實業教育に關し、かく縣學務部其の他官公私諸機關、實業教育界其他一般教育界、實業界の三者が、多數且つ連日實業教育振興と云ふ問題に關して、眞面目に意見を交換し、研究懇談を遂げられたと云ふことは、恐らく初めてのことであらうと思ふ。從來は兎角教育行政家は教育行政の埒內に於て振興方策を企劃し、教育家は教育家の範圍內に於て改善方策を研究し、實業家は實業教育によつて養成せられる人材を引受ける立場にありながら、教育に對して何等直接觸れる所なく、特殊の少數の人を除くの外は教育に關して風馬牛の態度であつたが、殊に實業教育は此の三者が區々別々に孤立してゐてはならない、常に此の三者が一體となつて協力し邁進しなければならないのであつて、今回中央會と縣振興會との聯合の下に斯の如き會合が

催され、多大の收穫を收め得たことは、本縣實業教育界の爲に慶賀すべく、又縣實業界の爲にも、其の人材供給の源泉たる機關に直接觸れ、抽象的ではあるかも知れないが、併し極めて示唆に富める意見を注入することが出來たことは非常な好機會であつたと思ふ。將來部門別、專門科目別に漸次分科せられ、例へば農、工、商の如く、或は進んで蠶絲、電氣、拓殖、商業實踐等の如く各專門學科に付き、又土地に付ても今回催されなかつた新しい土地に於て開催せられ、又教育家が縣下各實業界の第一線にある諸氏から經營、研究、實踐上の體驗談を聽くの會、或は學校教員諸君が縣內及他府縣の實業教育視察、實業教育及產業狀態の視察及其結果を報告する會、或は學校及試驗場の研究結果の聯合發表會等も催されたならば、地方實業界及實業教育界を刺戟進步せしめることは少なくないと思ふ。

實業教育振興中央會は、實業教育五十週年記念式典に於ける總裁閑院宮殿下の御懇篤なる御令旨を奉體し、又十五年二月二十一日皇紀二千六百年の記念すべき肇國の記念日に當り、破格の恩命を以て御下賜金を拜受するの光榮に浴せる責務に鑑み、全國的に又地方的に、全體的に又部分的に苟しくも實業教育の振興發展に資する事柄に對しては、物心兩方面よりあらゆる協力を惜しむものではない。今後本縣に於て斯くの如き催しが再三繰返して行はれ、縣實業教育界を刺戟すると同時に、縣實業界をして教育に一層興味を喚起せしめ、相俟つて渾然として生きた實業教育が實施せられるやうになるならば、中央會の願ひは足るのである。

59.5
146

昭和十七年三月二十日印刷
昭和十七年三月廿五日發行

實業教育資料17　價　二〇錢
長野縣の實業教育

編輯兼發行人　財團法人實業教育振興中央會
常務理事　倉橋藤治郎
東京市牛込區原町一丁目六八
印刷者　東京市王子區神谷町一丁目四八二
吉田了太
印刷所　東京市王子區神谷町一丁目四八二
東京印刷株式會社

不許複製

發行所　日本出版文化協會々員番號二一二〇〇八
財團法人　實業教育振興中央會
本部　東京市麹町區霞ヶ關文部省內
事務局　東京市麹町區丸ノ內三ノ六仲二號館內
振替口座東京一四三〇三九番
電話丸ノ內(23)五八六〇番

配給元　東京市神田區淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

259.
146

終